

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開文書

この研究の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。

なお、この研究の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の試料（例：血液など）や診療情報（例：カルテの情報など）をこの研究に使ってほしくないと思われた場合にも、下欄の問い合わせ担当者までその旨をご連絡下さい。

《試料・情報の 利用目的及び 利用方法》	●研究の名称 骨盤部術後リンパ漏に対するリンパ管 IVR の有用性に関する多機関共同後ろ向き観察研究
	●研究の対象 2017年1月～2025年1月までの期間に、当院および共同研究機関にて骨盤部術後リンパ漏に対して IVR 治療を受けた20歳以上の方
	●研究の目的 術後のリンパ性腹水は、傍大動脈や骨盤部リンパ節郭清を行う泌尿生殖器系の手術に多いとされます。リンパ節郭清を行うと程度の差はあれ一時的にリンパ液が漏出しますが、多くの場合は自然に改善します。しかしながら、中にはリンパ漏が改善しない方がいらっしゃいます。多量のリンパ漏となると腹部膨満、下肢浮腫を来す他、免疫低下・脱水を来し、「生活の質」が低下するばかりでなく、命に関わる状態となる可能性があります。また、場合によっては原疾患の治療ができなくなる可能性があります。これまで、リンパ漏の治療としては薬物治療などの保存的加療と手術が行われてきました。しかし、リンパ漏は出血と異なり、肉眼的にみることができないため、手術の成功率は高いとはいえません。一方、最近ではリンパ管を直接映し出すリンパ管造影検査とそれに引き続いて実施するリンパ管塞栓術（総じてリンパ管 IVR）の有用性が報告されており、保存的加療で改善の得られないリンパ漏に対する治療選択肢となりつつあります。本研究の目的は骨盤部リンパ漏に対するリンパ管 IVR の有効性や有害事象の頻度を評価することです。
	●研究の期間 研究機関の長による実施許可日 から 2028年3月まで
●利用又は提供を開始する予定日	

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開文書

	<p>研究機関の長による実施許可日</p> <p>●他の機関に提供する場合には、その方法 この研究では浜松医科大学にデータを提供します。提供の方法は外部記録媒体にデータを記録し郵送する。特定の個人を照合するための情報は、提供元の研究責任者・分担者が保管・管理します。</p>
<p>《利用し、又は提供する試料・情報の項目》</p>	<p>●研究に使用する試料・情報 情報：病歴、治療歴、身体所見、治療経過、血液・腹水検査データ、画像データ 等</p>
<p>《利用する者の範囲》</p>	<p>●機関名および責任者名 浜松医科大学 棚橋 裕吉 岐阜大学 川田 紘資</p>
<p>《外国にある者に対する試料・情報の提供》</p>	<p>この研究では外国にある者へ試料・情報を提供しないため、該当しません。</p>
<p>《試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称》</p>	<p>国立大学法人浜松医科大学</p>
<p>《試料・情報の利用又は他の研究機関への提供の停止(受付方法含む)》</p>	<p>あなたの試料または情報を研究に使用することや、他の研究機関に提供することを望まない場合には、問い合わせ先まで連絡をいただければ、いつでも使用や提供を停止することができます。連絡方法は、以下《問い合わせ先》をご確認ください。</p>
<p>《資料の入手または閲覧》</p>	<p>この臨床研究の計画や方法については、あなたのご希望に応じて資料の要求または閲覧ができます。あなたご自分の研究結果を知りたいと希望される場合は、研究担当者にその旨をお伝えいただければ、他の研究対象者に不利益が及ばない範囲内で、あなた自身にあなたの結果をお伝えします。希望された資料が他の研究対象者の個人情報の場合には、資料の提供または閲覧はできません。</p>

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開文書

《情報の開示》	あなたご自身が研究の概要や結果などの情報の開示を希望される場合は、他の参加者に不利益が及ばない範囲内で、原則的に結果を開示いたします。しかし、情報の開示を希望されない場合は、開示いたしません。 また、本研究の参加者以外の方が情報の開示を希望する場合は、原則的に結果を開示いたしません。
《問い合わせ先》	〒431-3192 浜松市中央区半田山一丁目 20 番 1 号 浜松医科大学 部署名： 放射線診断学講座 担当者： 棚橋 裕吉 TEL： 053-435-2242 E-mail： ytana@hama-med.ac.jp